



学校だより

みどりの

- 考え伝え合う子
- 心豊かな子
- 元気な子
- やりぬく子

令和4年4月28日

当然のことと感謝の気持ち

校長 遠藤 昌司

開花が少し遅かった正門そばの桜もほぼ咲き終わり、新緑がまぶしい季節に移りました。今は校庭の所々で見られるつつじがとてもきれいです。過ごしやすい日も増えてきましたが、季節が逆戻りしたような肌寒い日もありますので、体調管理には十分に留意していきたいものです。

時々、校内を回っていますが、新しい担任のもと、新しい友達とのクラスづくりは順調に進んでいるようです。

教室のそばを通るときは授業の邪魔にならないようにそっと歩くのですが、気づいて会釈をしてくれたり、一年生の中には無邪気に手を振ってくれたりする子もいます。また、廊下などですれ違う時に、自然に挨拶をしてくれる子もいれば、とても礼儀正しくお辞儀までしてくれる子、じっとこちらの様子を窺いながら、あるいは恥ずかしさに何とか打ち勝つての上か、ひそやかに「こんにちは」と発してくれる子、その形態はさまざまです。

昨年、いつも見守りをしてくださっている自治会長さんから本校児童の挨拶について、「元気に返してくれる子、反応のない子、色々といっても、『今はそういう段階なのだろうな』と理解していますよ」というようなお話がありました。まだきちんとお辞儀をしたり、挨拶をしたりする習慣がついていない子に対しての温かい受け止めに、とてもありがたく思いました。

お辞儀と言えば、少し前にこんなことが話題になっていました。あるまちで、新一年生を対象とした横断歩道の正しい渡り方指導があり、その中で警察官から「止まってくれたクルマの運転手さんにお辞儀をします」という説明があったそうです。そのことについて、ほほえましい光景として受け止めるばかりではなく、「当然の義務であるから感謝する必要なんてない」と言う声もあったそうです。

以前の何かの情報番組では、長野県では自動車を運転する人が横断歩道で一時停止をする率がとても高いことが紹介され、それは県民全体に横断歩道を渡る際に自然とお辞儀をする習慣があるからではないか、と解説されていました。

人の価値観はさまざまですが、挨拶も、感謝の思いを伝えることも、人と人とのつながりの上では重要なことだと思います。

「見守り支える当事者」の役割を担ってくださっている地域の方々に、感謝の思いを伝えられるよう、子ども達が成長してくれることを期待しています。